

天ヶ瀬ダム再開発計画（ $1500\text{ m}^3/\text{秒}$ ）と宇治川改修計画の再検討・中止を

平成の愚挙・宇治川景観破壊を考える！

「千年の宇治」といわれる宇治のまちを特徴付けているものは何か。琵琶湖から流れ出した瀬田川が宇治川と名前を変えて山間部を抜け、平野に出てきたところに宇治のまちが広がっています。東側の山並みと南側の丘陵、その間を自然豊かな景観の宇治川が北流し、古より人々がその景勝を愛で、貴族の別荘が建てられるなどしてきました。右岸の上流から興正寺、恵心院、朝日焼、宇治神社、宇治上神社、橋寺、通圓茶屋など、塔ノ島に十三重塔、左岸は上流から花やしき浮舟園、平等院、県神社、橋姫神社、お茶の上林家など、また少し離れて白川の白山神社と地蔵院、三室戸寺や黄檗山万福寺などの数多くの歴史的建造物群があり、宇治茶とそれらに接する市民の暮らしがあります。宇治を特徴付ける背骨ともいえる宇治川の景観が宇治川改修工事で台無しになってきています。

最近では、天ヶ瀬吊橋から塔ノ島まで宇治川左岸に延々と石積みの導水管が敷設され、塔ノ島が石積み仕切り堤防によって左岸とつながれ、喜撰橋から上流の景観は見るも無残。派川は水量が極端に減少して藻が繁殖し、淀川工事事務所が年数回藻を除去せざるを得ず、時には悪臭で観光客から苦情がよせられる状況となりました。

いま宇治川改修工事は最終段階の河床の掘削工事を前にして名勝「亀石」周辺で宇治川を埋め立て公園化する護岸工事が行われています。亀石の景観は台無しになります。河床の掘削によって宇治川の自然形態は大激変します。

全国では治山・治水の総合的な考えからダム工事そのものが見直しされる時代、宇治川改修計画も抜本的に再検討する必要があります。琵琶湖の状況を見ても $1500\text{ m}^3/\text{秒}$ 放流の必要性は減少しました。

淀川工事事務所との懇談で「現状で毎秒 1500 m^3 の水が流れれば宇治川は決壊するのか」と質問したことに対して、関係者は、「宇治橋から下流はすでに川幅拡幅や堤防補強が行われ毎秒 1500 m^3 の通水能力はあり、宇治橋上流は現状で毎秒 1500 m^3 の水が流れれば水はあふれるが宇治橋で河川に戻る」、「琵琶湖の水漬きを早く解消するために毎秒 1500 m^3 を流す。河川が毎秒 1500 m^3 の通水能力に改修されなければ 1500 m^3 は流さない」ということでした。

必要性がなくむしろ危険な毎秒 1500 m^3 の水を流すために宇治橋から上流の日本に一つしかない景観を破壊してほしくない、守ってもらいたいと思うのは当然ではないでしょうか。宇治川の自然景観と宇治上神社・平等院など世界遺産を含む歴史的建造物群とその景観は一体のものです。その破壊は国際的な背信行為です。

宇治川の河床の掘り下げがなければ、道水管も塔の川の石積み仕切り堤防も必要ありません。

河床の掘削をやめて、破壊された景観を再生してもらいたい。

「亀石」が陸に上がり、平成の愚拳・宇治川破壊の生き証人とならないように直ちに工事を中止し、計画を見直すべきだと思うのです。